

ライティング（書くことの）評価はどうあるべきか ——「ルーブリック評価」の批判的検討——

2022年 11月19日（土） 13:30～16:10頃 @ Zoom オンライン

本シンポジウムは、特に、大学教育を念頭に置きつつ、「ライティング（書くことの）評価はどうあるべきか」という問いに挑むものである。近年、この論題を考える上で無視できないキーワードは「ルーブリック評価」である。本シンポジウムは、ライティング評価に関する昨今の学術的・実践的言説、すなわち「ルーブリック評価」を批判的に検討するとともに、ライティング（書くこと）の評価の今後の展望をどう描くべきかについて討論する。

■ 話題提供

石田智敬（京都大学大学院、日本学術振興会特別研究員）

「エッセイ評価における現代的論争点を紐解く：ルーブリック論争を調停する」

松下佳代（京都大学）

「対話型論証によるライティングとその評価：論証としての評価」

森本和寿（大阪教育大学）

「表現を起点とするライティングとその評価：Good Enoughな評価のために」

■ 指定討論

若松大輔（弘前大学）、遠藤貴広（福井大学）、川地亜弥子（神戸大学）

シンポジウムへの参加申込先

academic.weeks.kawaji@bear.kobe-u.ac.jp（締切：11月12日 土曜日）

[注] 件名を「セミナー申込」とし、①お名前、②ご所属を、メールでお知らせ下さい。前日にZoomの招待メールを送信します。お送りいただいた個人情報は、本イベントの運営の目的のみに使用いたします。

■ 企画・運営

神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻教育方法学研究室

川地亜弥子（准教授）・瀬川千裕（博士課程後期課程）

高藤由紀子（博士課程前期課程）・今西尚子（博士課程前期課程）

